



# 碧南ロータリークラブ週報

第2493回例会 平成22年3月17日(水)

● 会長 鈴木 並生 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 新美 真司

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール  
 ■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90  
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100  
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>  
 E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)

■ 会報委員 岡本明弘・新美雅浩・大澤明敬・西脇博正



## ● 斉 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

## ● 本日のお客様

衣浦衛生組合 業務課長 石川憲生氏  
 衣浦衛生組合 業務課長補佐 深津英明氏



## 会員増強推進者バッチ贈呈



森田 英治君



加藤 良邦君



新美 孝君



竹中 誠君

## 会 長 挨 拶

本日はホルモン焼の話をさせていただきます。最近、男性だけでなく若い女性などにもホルモン、もつ人気が広がっているそうです。その結果、畜産副生物（内臓）の市場価格が高騰し新鮮な畜産副生物の入手が困難となっているという記事が少し前の雑誌に載っていましたので紹介致します。社団法人日本畜産副産物協会の吉岡光雄事務局長によれば、牛1頭からとれる内臓重量は45キログラムだそうです。国内で1年間に屠殺された牛の数量は約120万頭です。つまり牛の内臓の「年間生産量」は約54000トンとなります。アメリカで



鈴木並生会長

アメリカで

BSE（狂牛病）が発生し、輸入制限がかけられたために、アメリカからの牛内臓の輸入が減少し、現状では国内産で需要の大半を満たしているという事ようです。屠殺された内臓は、食肉市場の卸業者が購入し卸業者から小売店や飲食店が買い求めるという構図になっているそうです。国内での BSE 発生直後は買い手が見つらず破棄せざるを得ないこともありました。昨今のホルモン人気が高まった事と、輸入が減少したこともあり品薄状態ということです。その為ブームに乗ってホルモン店を開業しようとしても、材料の内臓が仕入れられず苦労している人もいます。何れにしても内臓は品質の良さと新鮮さが命。卸業者との太いパイプがあればこそ、旨いホルモン焼きをお客様に提供できるという事だそうです。

何かの参考になればと思い紹介させて頂きました。以上で本日の挨拶と致します。

## 幹事報告

例会変更等は別紙幹事報告書の通りです。



長田豊治幹事

## 委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数76名(内出席免除者14名の内出席者12名)出席者70名

出席対象者 70/73名

出席率 95.89%

欠席者 6名(病欠者1名)

前々回修正出席率 98.53%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

杉田 茂君 本日、卓話の講師 衣浦衛生組合 石川憲生業務課長を紹介します。

## 卓話

「クリーンセンター衣浦の現状」衣浦衛生組合 業務課長 石川 憲生氏

私たちが生活して行く上で必ず出てくるものがごみです。ごみは収集に出していても、ごみ処理のことは皆さんに意外と知られていないと思いますので衣浦衛生組合のクリーンセンター衣浦のごみ処理の現状についてお話させて頂きたいと思います。衣浦衛生組合は市役所の出先機関と思われる方が多くあり、ごみの収集の問い合わせですとか、し尿の収集の問い合わせなど多くあります。組合はごみの処理場ですので収集のことは市役所の環境課へして頂くようお願いすると苦情を頂くことがありますので組合の宣伝を兼ねて、初めに衣浦衛生組合の位置づけ、業務の内容の説明をさせて頂きます。



衣浦衛生組合は、碧南市と高浜市が行政サービスの一部を共同で行うことを目的として地方自治法の規定に基づき設置された組織で一部事務組合です。昭和37年に設置されました独立した組織であります。市役所の出先機関ではありません。市町村を普通地方公共団体と言うのに対し、一部事務組合は固有の執行機関、議会、条例等の制定権も持っていますので特別地方公共団体とも言います。職員は公務員であります。衣浦衛生組合が共同処理している事務は大きく分けると4つになります。

①し尿処理

衛生センターで、くみ取りし尿と浄化槽を清掃した汚泥の処理を行っています。

## ②ごみ処理

クリーンセンター衣浦はごみ焼却と粗大ごみの処理を行っています。リサイクルプラザは粗大ごみとして持ち込まれた中で再利用可能と思われる自転車、家具等を簡単な修理した後、展示販売しております。販売価格は入札方式により皆さんが決定して一番高い人に販売しています。古着・贈答品等のリサイクルショップもあります。

## ③余熱利用施設

サンビレッジ衣浦はごみ焼却時の熱を利用し市民の余暇の利用と健康増進目的としたプールと風呂の施設で、プール・風呂は、それぞれ大人は400円です。両方入られる方はセット券があり500円です。

## ④火葬場

衣浦斎園の運営です。今年度、待合・斎場等を改装し、待合室の洋室化、エレベーターの設置、2階は通夜から告別式まで行える式場の開設、指定葬儀業者で標準的な葬儀が行える規格葬儀制度を新たに設けまして4月1日から利用できるようになります。

クリーンセンター衣浦の概要は、ごみ処理施設は処理能力が1日190トンで、95トン炉が2炉あります。炉の形式は全連続燃焼式の回転ストーカ炉で円形の筒が回転しながら焼却して行きます。この炉は当組合を含めて全国で2か所しかない珍しい炉です。粗大ごみ処理施設は、処理能力1日40トンで、せん断式破砕機、回転式破砕機で細かく破砕した後、可燃物、鉄、アルミ、不燃物の4種類に分別されます。平成7年10月に稼働し現在15年目です。近年、経年劣化による能力低下や故障も多くなってきており年間3億5千万円ほどの修繕費用が必要となっています。

次にごみ搬入量の推移は、事業系ごみは平成19年度まで増加し続けていましたが平成20年度は19年度より約9%の大幅な減少となりました。家庭系ごみは平成18年度まで増加し続けていましたが平成19年度から年間1%程度減少してきています。全体では19年度まで増加しつづけていましたが20年度になってやっと前年度より約4%減少しました。愛知県が県内の市町村を取りまとめたものを見てみると、処理をしなければならないごみの一人当たりの排出量は平成10年度をピークに減少傾向となっています。碧南市と高浜市、なぜ減らなかったのか不思議ですね。事業者、市民の資源の分別意識の低下、市のごみ減量施策、啓発が足りないのか、いろいろな原因があるのではと思います。

次に直接持込み件数の推移は、家庭ごみはオープン当初クリーンセンターは資源ごみの分別はしなくても受けていましたが、面倒な分別しなくても受けてくれるということが口コミで広がり始め問題化してきましたので平成10年に碧南市と分別種類を同じにして分別場を設置したことから件数が減少しました。ところが、町内会に入っていないなくても気兼ねせず持っていけるなど大変便利であるということが奥様方の口コミでどんどん広がり、現在では当初の約3倍になってしまい東の道路まで渋滞が伸びることがたびたび発生し交通安全上農道に迂回させております。事業者の方にも更に迷惑がかかることとなりますので資源ごみは地域の分別拠点に出しましょう。どうしても持込むときは事前に分別し量をまとめて持ってくるようにと啓発看板の設置とチラシを配りましたが一向に改善されていません。

次に可燃ごみの組成の推移は、ごみクレーンで攪拌したごみピット内のごみの内容を調査したもので平成10年度と20年度を比較したものです。紙・布類、ちゅう介類（生ごみ）の量はほとんど変わっていませんが、プラスチック類は8%減少しています。産業廃棄物の搬入規制と高浜市が20年度から容器包装プラスチックの分別収集を始めたことによるものと思われます。木・竹・わら類は7%増加しています。よく燃えて熱量のあるプラスチックが減って、水分が多く燃えにくい濡れた刈草、生の剪定枝が増えているということで、ごみカロリーが大きく低下している状況です。ごみピット内のごみの水分は40%から50%にもなっています。基準ごみ値より大きく低

下すると燃えが悪く、ダイオキシン対策で燃焼温度を800度以上で燃やさなくてはならないため灯油を吹込み800度を確保しています。非常に燃えにくい時は灯油を1時間に350リットルくらい使用することもあります。

平成20年度に搬入されたごみの処理状況は、全体のごみの量は39,406トンで、内訳として排出形態別では家庭ごみが66%、事業ごみが34%になっています。ごみ種別では可燃ごみが78%、粗大、不燃ごみが22%になっています。ごみ処理費用は10億7,477万円かかっており、市民1人当たり9,840円、1世帯当たり28,920円もかかったこととなります。

最後に、ごみ減量のための3R（スリーアール）を推進しようであります。3R（スリーアール）という言葉はよく聞かれると思います。3R（スリーアール）は、リデュースは、ごみを減らそう。リユースは、くり返して使う。リサイクルは、再び資源として利用しようになります。雑誌・段ボールはまだ多く入っていますしパンフレット・チラシは束になって入っていたりしています。また、ごみ袋の中に缶・瓶も含まれています。こういうものは黒いごみ袋とかコメ袋のような紙袋に入っていることが多いです。生ごみは水分が多く滑って転びそうになるくらいです。碧南市と高浜市は、ごみの減量がまだまだなされていません。皆さんに特にお願いしたいことはリデュース(ごみを減らそう)とリサイクル(再び資源として利用しよう)の2点です。リデュース(ごみを減らそう)は家庭から出る生ごみは堆肥化するか、ごみとして出す場合は三角コーナーからすぐ捨てずに水分をもうひと絞りして下さい。お店からの生ごみは水分をよく切ってからごみ袋に入れて下さい。剪定枝と刈草は半がれ又は枯れてからごみ袋に入れて下さい。濡れたものは絶対入れないで下さい。それから、コンピューター用紙、シュレッターした紙、チラシなどほとんどの古紙はリサイクルできますので可燃ごみとして出さずリサイクルに回して下さい。なお、許可業者さんに収集してもらう場合は中身が見える透明または半透明のごみ袋を使用して下さい。リサイクル(再び資源として利用しよう)では、事業で発生する古紙は、裏カーボン紙、防水加工紙など一部除いてほとんどの古紙はリサイクルできます。段ボール、新聞、雑誌と封筒、パンフレット、メモ用紙、コンピューター用紙のような雑古紙は一緒にOKです。3種類に分けて引取業者に持ち込んで下さい。碧南市では西端の高浜メタルさんだけが無料引き取って頂けます。

クリーンセンターの衣浦の現状ということで、ごみの搬入状況、処理状況の話は致しましたが、循環型社会の構築、ごみの減量がCO<sub>2</sub>の削減となり地球温暖化防止にもなりますので、ごみの減量のお願いを申し上げまして卓話のしめとさせていただきます。

**次回例会案内 平成22年3月31日（水）**  
**卓話「場を高める」愛知県立碧南高等学校 教諭 高野修滋氏**